表 9.9-38　重要な種の予測結果(アオダイショウ)

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">低地から山地まで広く分布し、森林、水田、住宅地まで様々な環境。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">水田周辺の草地環境で初夏に 1 例(抜け殻)が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたアオダイショウは 1 例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種の主な生息環境は水田及び住宅地、周辺樹林地を含む平野部の水田環境と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。
工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
</table>

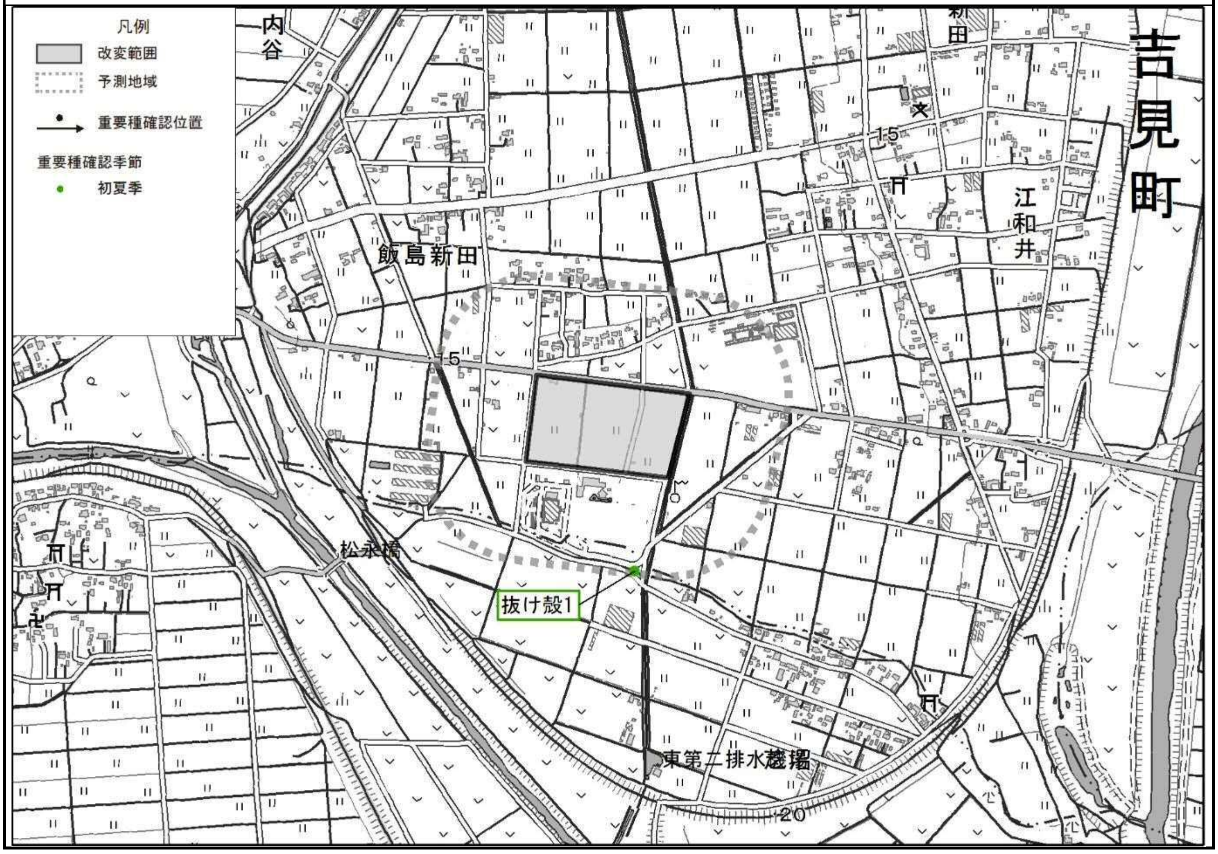


表 9.9-39 重要な種の予測結果(ヒバカリ)

項目			内容	
主な生息環境			低山から山地まで広く生息している。水辺をよく好み、水田、畑地、湿地、池沼の周辺などでみられる。	
現地確認状況			水田周辺の草地環境で夏季に亜成体 1 例(死体)が確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の改変	調査地域周辺で確認されたヒバカリ 1 例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種の主な生息環境は水田及び住宅地、周辺樹林地を含む平野部の水田環境と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
	存在・供用	施設の存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
確認位置				

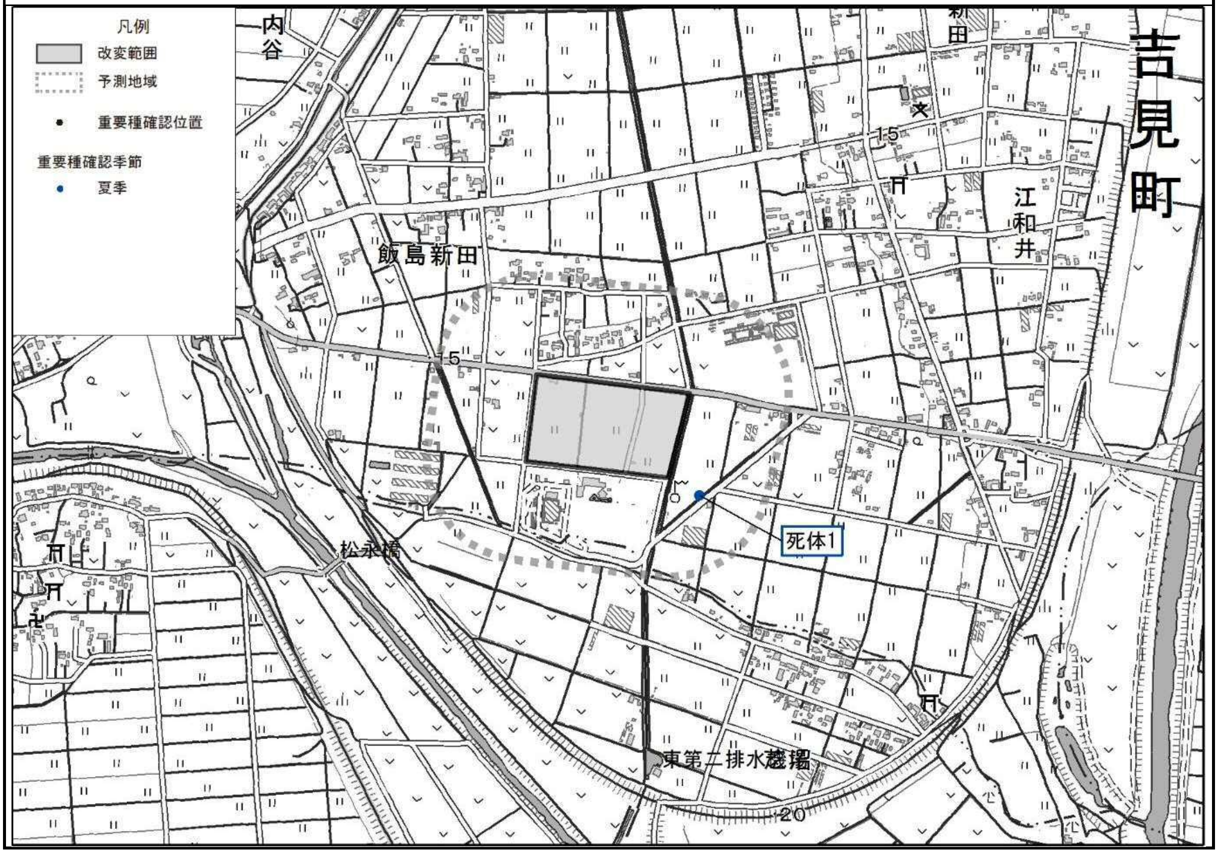


表 9.9-40 重要な種の予測結果(ヤマカガシ)

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">低地から山地まで広く生息している。水田、河川敷、林地、畑地、湿地、池沼の周辺など多様な環境。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">水田周辺の草地環境で成体、亜成体、幼蛇が確認された。初夏季に 2 例、夏季に 1 例、秋季に 4 例が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたヤマカガシ 7 例のうち、本事業による計画地内で確認されたのは 2 例である。本種の主な生息環境は水田及び周辺樹林地を含む平野部の水田環境と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。
工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい(C)</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい(C)</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
</table>

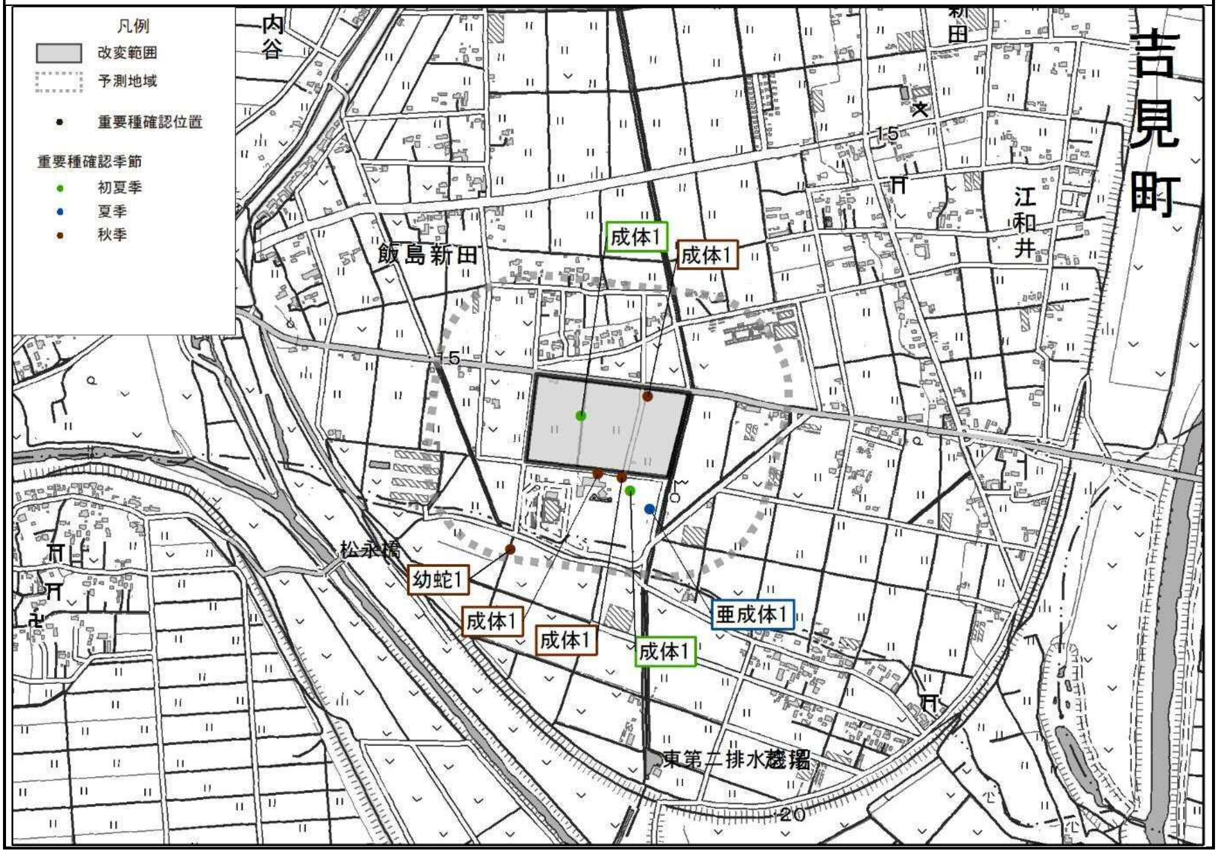


表 9.9-41　重要な種の予測結果(トウキョウダルマガエル)

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">丘陵地から平地の水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地など。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">主に水田及びその周辺で成体、亜成体、鳴き声が確認された。初夏季に 9 例、夏季に 6 例、秋季に 51 例、春季 32 例が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたトウキョウダルマガエル 98 例のうち、本事業による計画地内で確認されたのは 67 例(約 7 割)であり、調査地域内の生息地の半分以上が消失する。本種の主な生息・産卵環境は水田及びその周辺と考えられる。産卵環境となる改変範囲の水田は、工事前には水抜きされた状態であることから、本種が繁殖環境として利用する可能性はないと考えられる。また本種は、繁殖期以外も水辺から離れないことから、水田などの周辺に生息すると考えられ、水抜き後も、改変範囲を生息環境として利用する可能性がある。
工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的変化生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境に影響が生じると予測される。</td><td>影響が生じるおそれがある（A）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
</table>

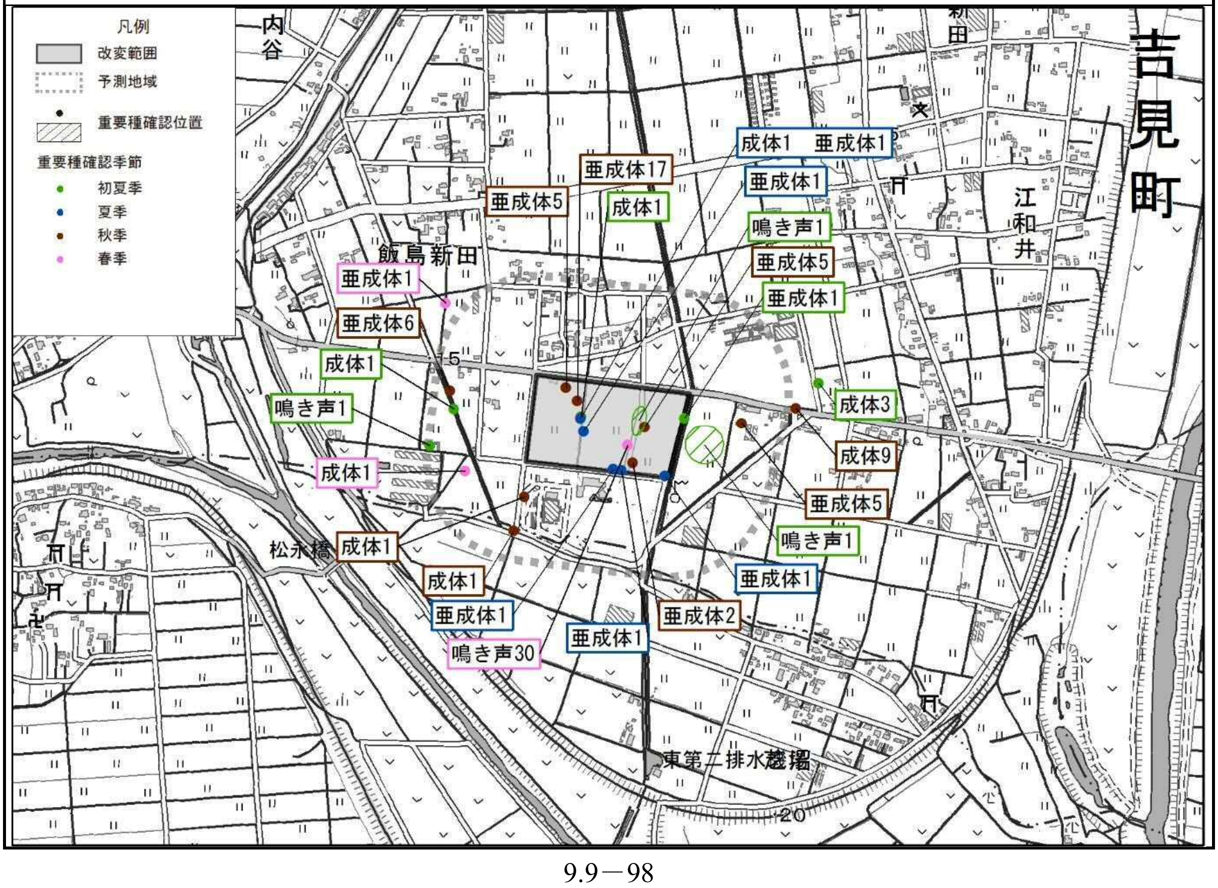


表 9.9-42 重要な種の予測結果(ツチガエル)

項目			内容	
主な生息環境			低山、丘陵地の流れの緩やかな河川、池沼、水田、湿地など多様な環境。	
現地確認状況			水田周辺の草地環境で春季に亜成体 1 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の改変	調査地域周辺で確認されたツチガエルは 1 例で、本事業による計画地内では確認されなかった。調査地域周辺における本種の主な生息・産卵環境は水田及びその周辺と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
	存在・供用	施設の存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
確認位置				

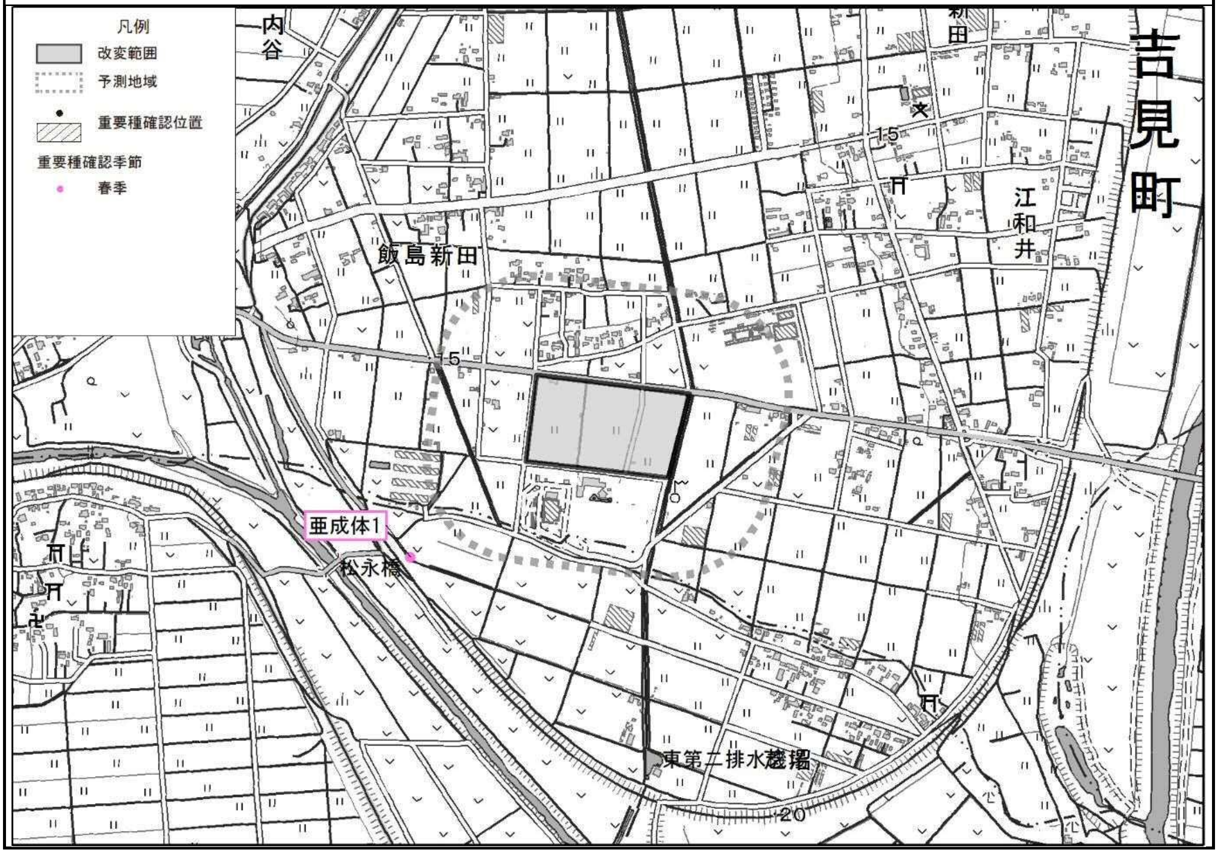


表 9.9-43　重要な種の予測結果(シュレーゲルアオガエル)

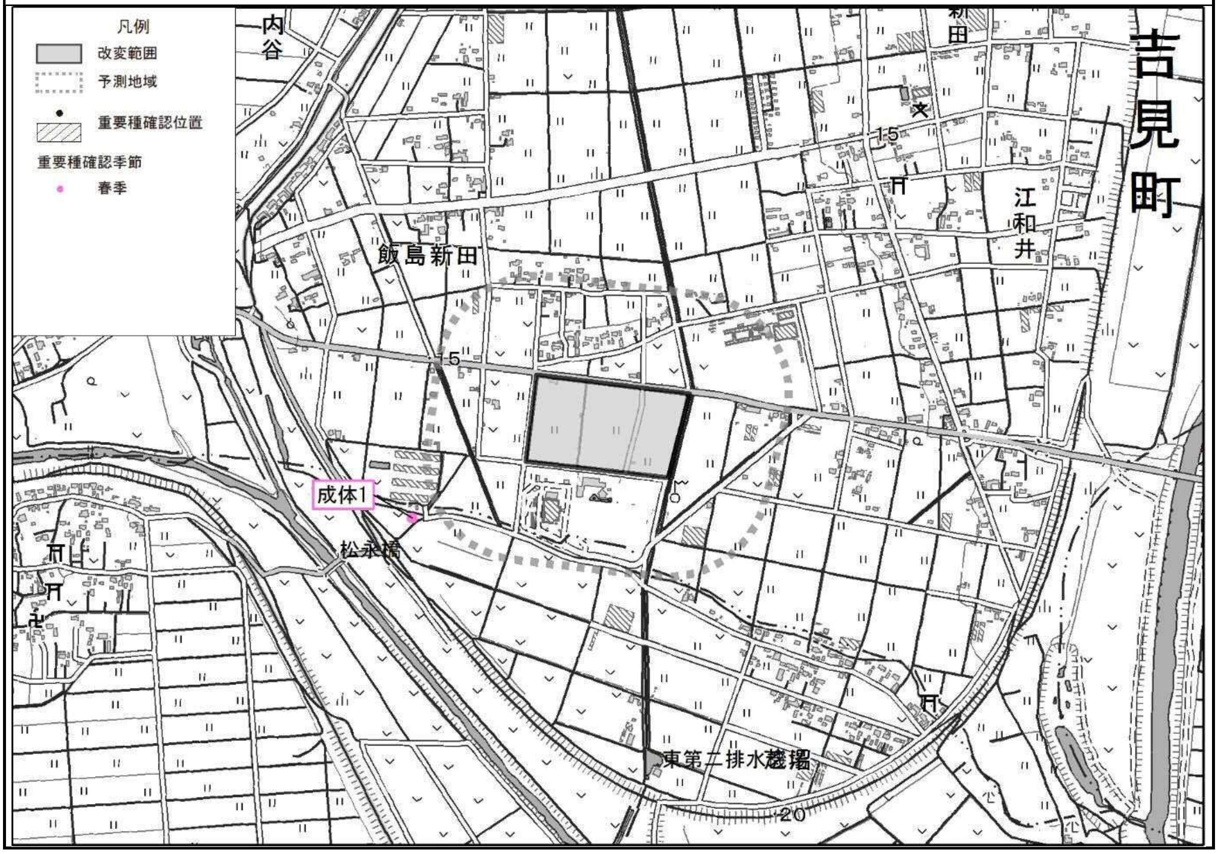
<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">低山から丘陵地にかけて雑木林など。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">水田周辺の湿性環境で春季に成体 1 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたシュレーゲルアオガエルは 1 例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種の主な生息環境は水田及び周辺の樹林地と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。
工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
</table>

表 9.9-44 重要な種の予測結果（スズムシ）

項目			内容	
主な生息環境			下層植生の発達した林縁部からやや湿潤な高茎草地。	
現地確認状況			耕作地跡の高茎草地の根際で秋季に成虫 2 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の改変	調査地域周辺で確認されたスズムシは 2 個体で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域周辺の草地環境を主な生息環境としていると考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
	存在・供用	施設の存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
確認位置				

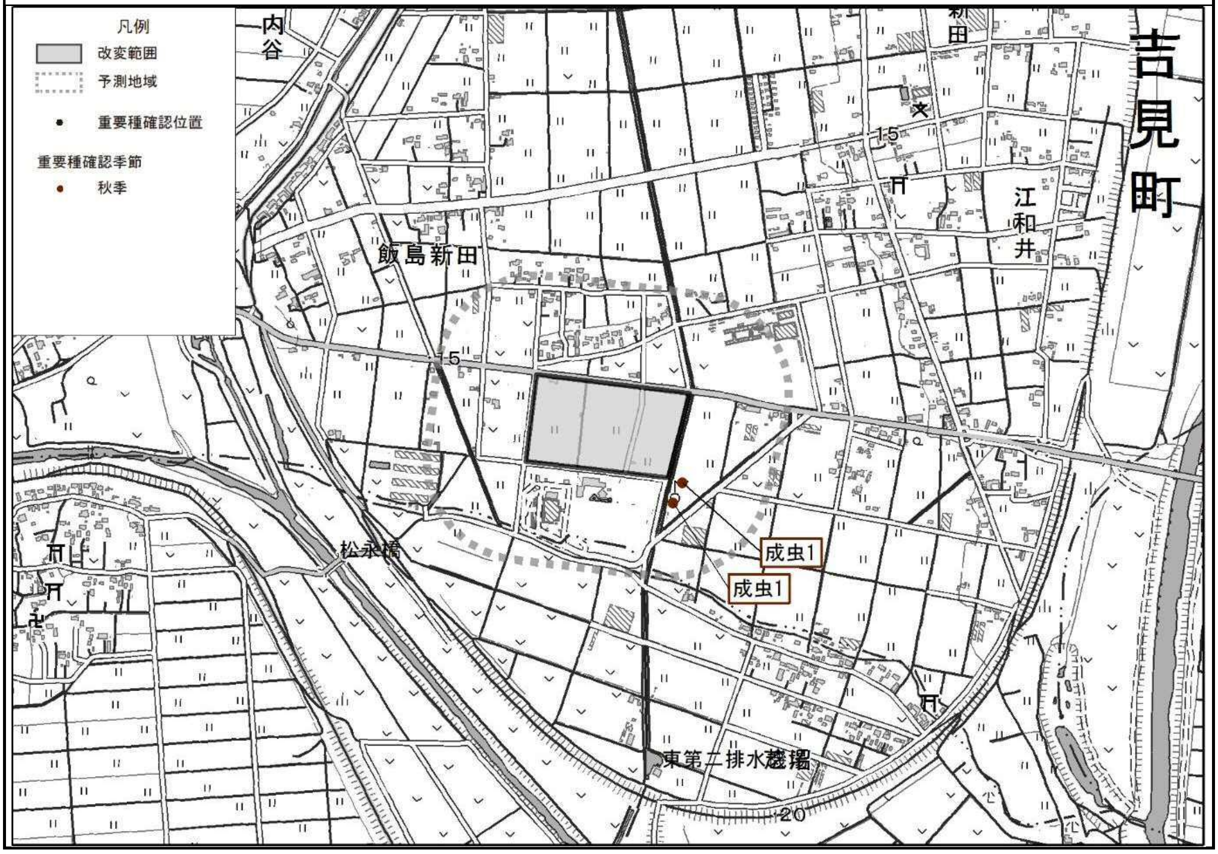


表 9.9-45 重要な種の予測結果（エノキカイガラキジラミ）

項目			内容	
主な生息環境			幼虫は寄主植物であるエノキ（ニレ科）の葉にツノ状の虫えいを形成し、その開口部を貝殻状の白色分泌物で覆う特性がある。	
現地確認状況			耕作地周辺に生育しているエノキで秋季に巣が 5 例確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の改変	調査地域周辺で確認されたエノキカイガラキジラミ 5 例（巣）のうち、本事業による計画地内で確認されたのは 5 例である。本種は寄主植物であるエノキの葉に巣をつくることから、調査地域周辺の公園や植樹帯を主な生息環境としていると考えられる。調査地域内にエノキの生育箇所は存在するため、本種の生息環境は周辺に残存する可能性はあるものの、一般的な生態より発生木は限られていること、現地調査で確認されたのは計画地内北東側のみ 1 箇所であり、生息地が消失する可能性がある。 本種の生息環境に影響が生じると予測される。	影響が生じる（A）
	存在・供用	施設の存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
確認位置				

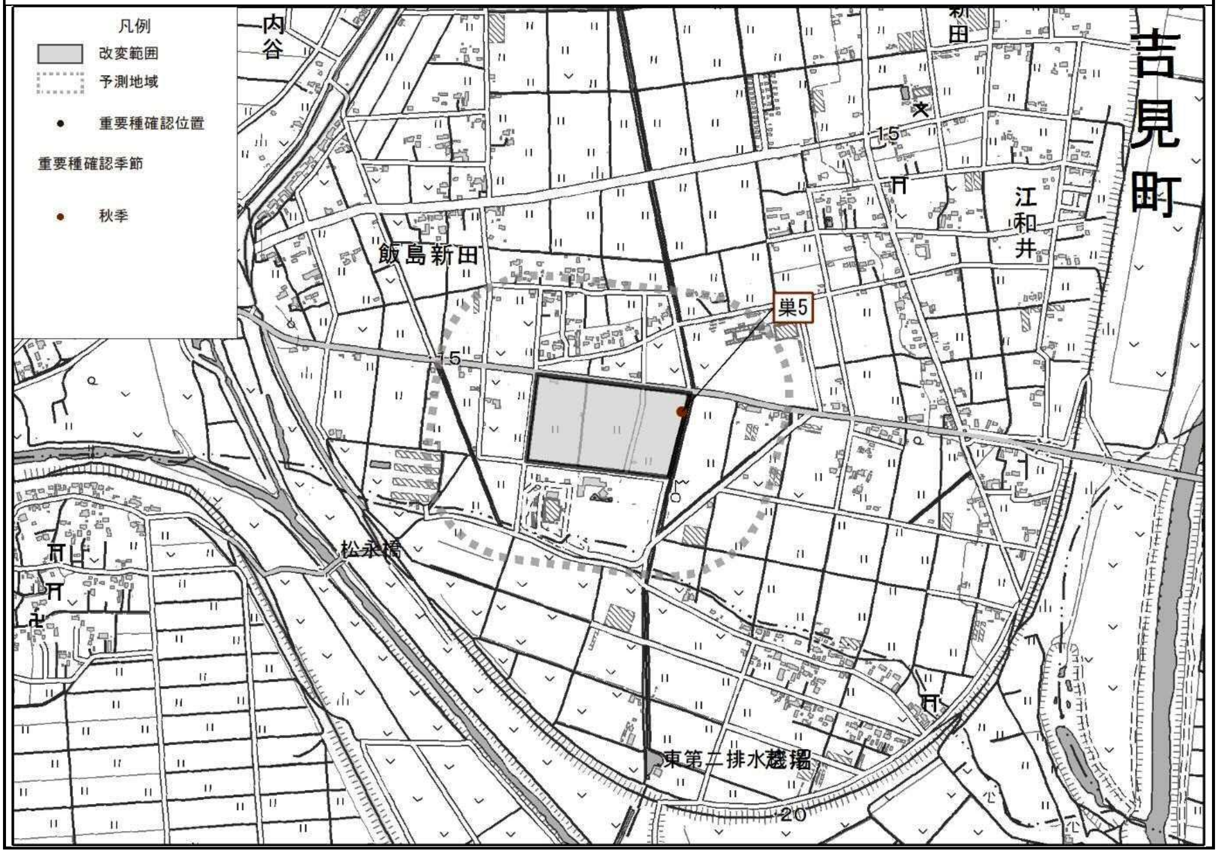


表 9.9-46 重要な種の予測結果(ビロウドサシガメ)

項目			内容	
主な生息環境			雑草間や石下、落葉下、雑草植物の根際など。	
現地確認状況			耕作地周辺の草地の根際で秋季に成虫 1 個体、春季に成虫 1 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の改変	調査地域周辺で確認されたビロウドサシガメ 2 個体のうち、本事業による計画地内で確認されたのは 1 個体である。本種は調査地域の草地環境を生息環境としていると考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
	存在・供用	施設の存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
確認位置				

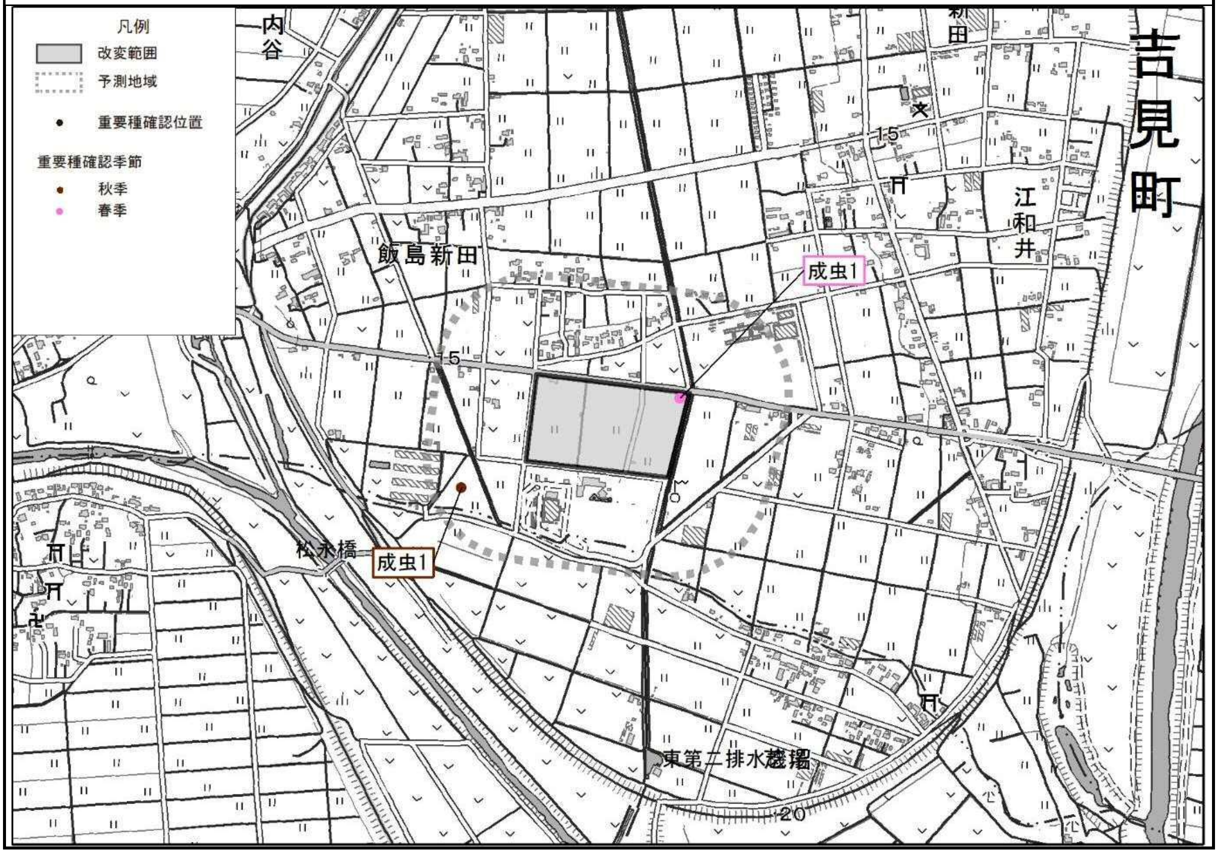


表 9.9-47 重要な種の予測結果(トゲサシガメ)

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">湿地や休耕田、河川敷の植物の根際を中心に生活。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">耕作地跡の高茎草地の根際で秋季に成虫 2 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたトゲサシガメは 2 例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の草地環境を生息環境としていると考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。
工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
</table>

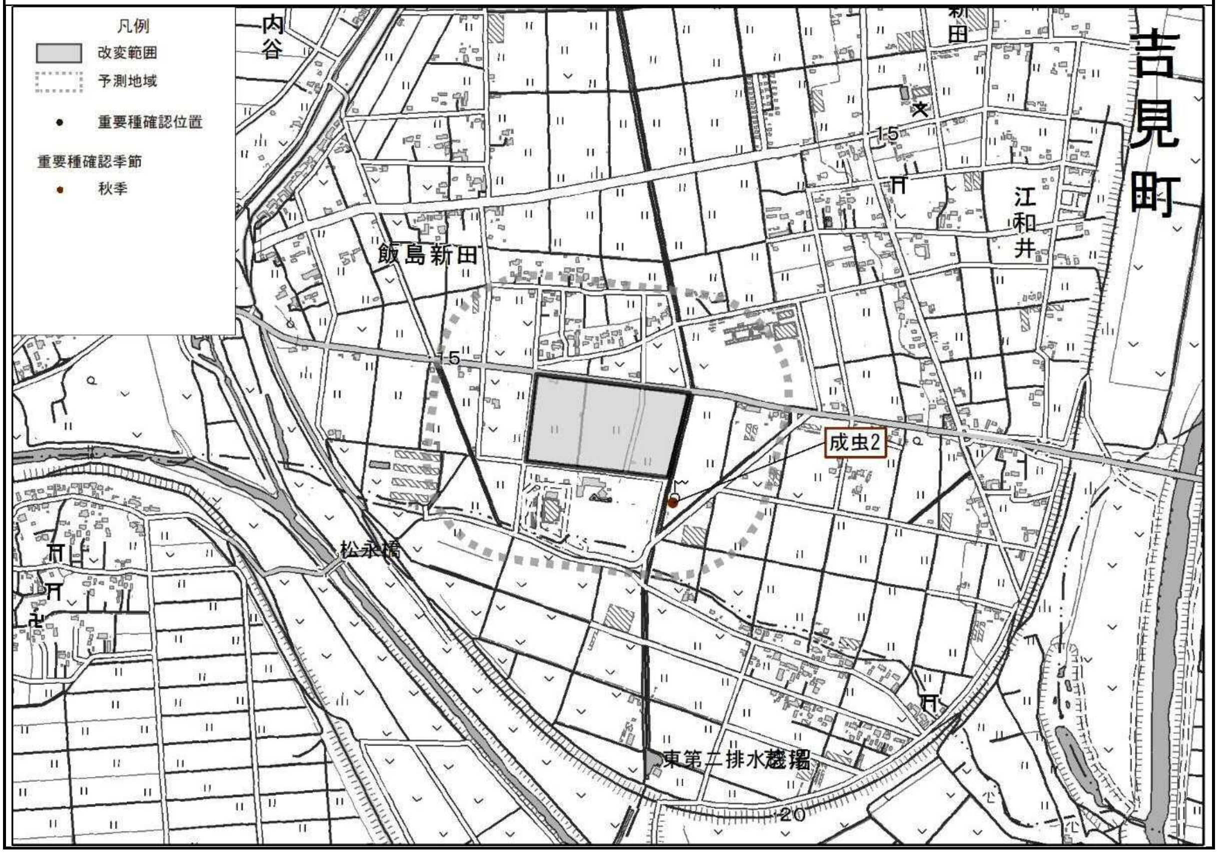


表 9.9-48 重要な種の予測結果（イネクロカメムシ）

項目			内容	
主な生息環境			イネをはじめサトウキビ、マコモ、ヨシなど湿った環境に生えるイネ科植物に生息する。	
現地確認状況			水田周辺草地の根際で秋季に成虫 1 個体が確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の改変	調査地域周辺で確認されたイネクロカメムシは 1 個体で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の水田環境を生息環境としていると考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
	存在・供用	施設の存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
確認位置				

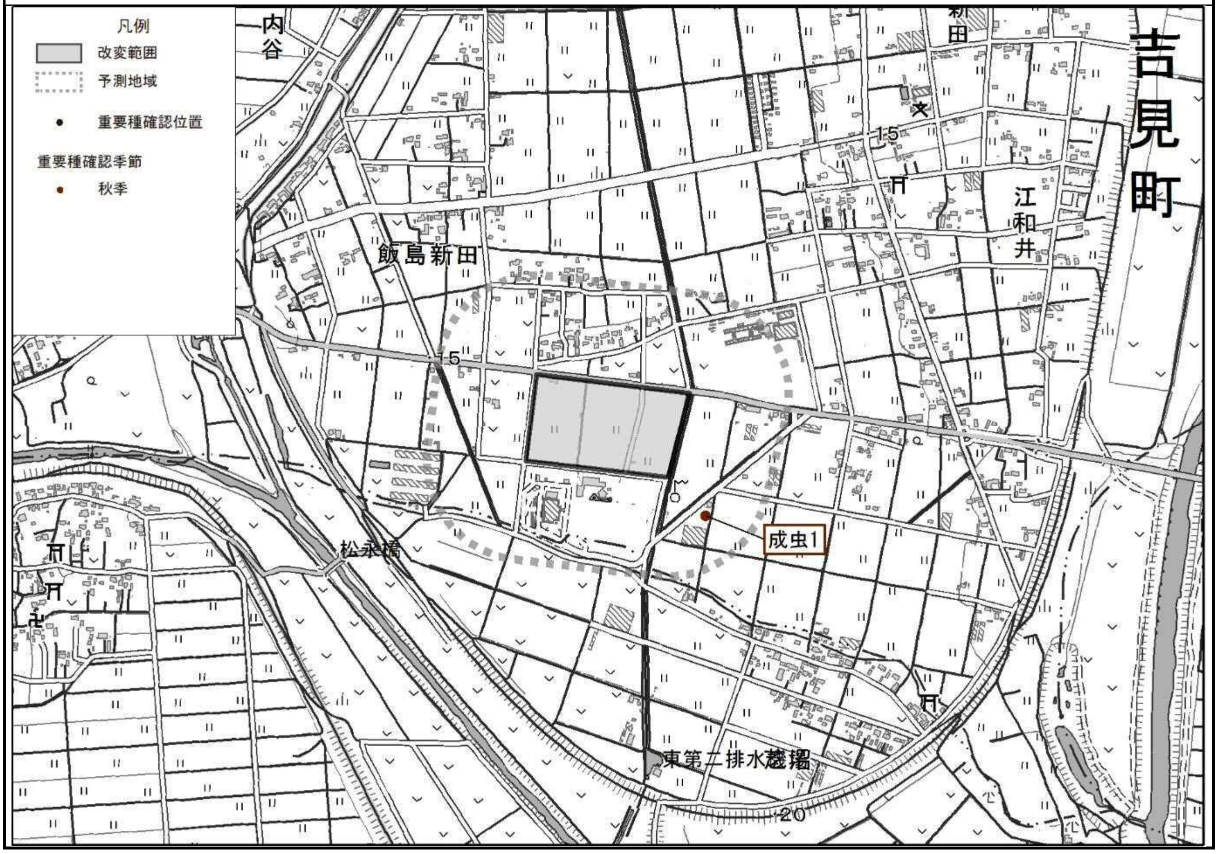


表 9.9-49 重要な種の予測結果(アサマイチモンジ)

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">スイカズラ、ハコネウツギなどスイカズラ科植物の生える平地～山地の林縁。渓流沿いの林縁。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">耕作地周辺の水路沿いの草地を飛翔中の個体を確認した。 夏季に成虫 1 個体、秋季に成虫 1 個体、春季に成虫 2 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたアサマイチモンジは 4 個体で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の水路周辺の草地を生息環境としていると考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。
工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい(C)</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい(C)</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
</table>

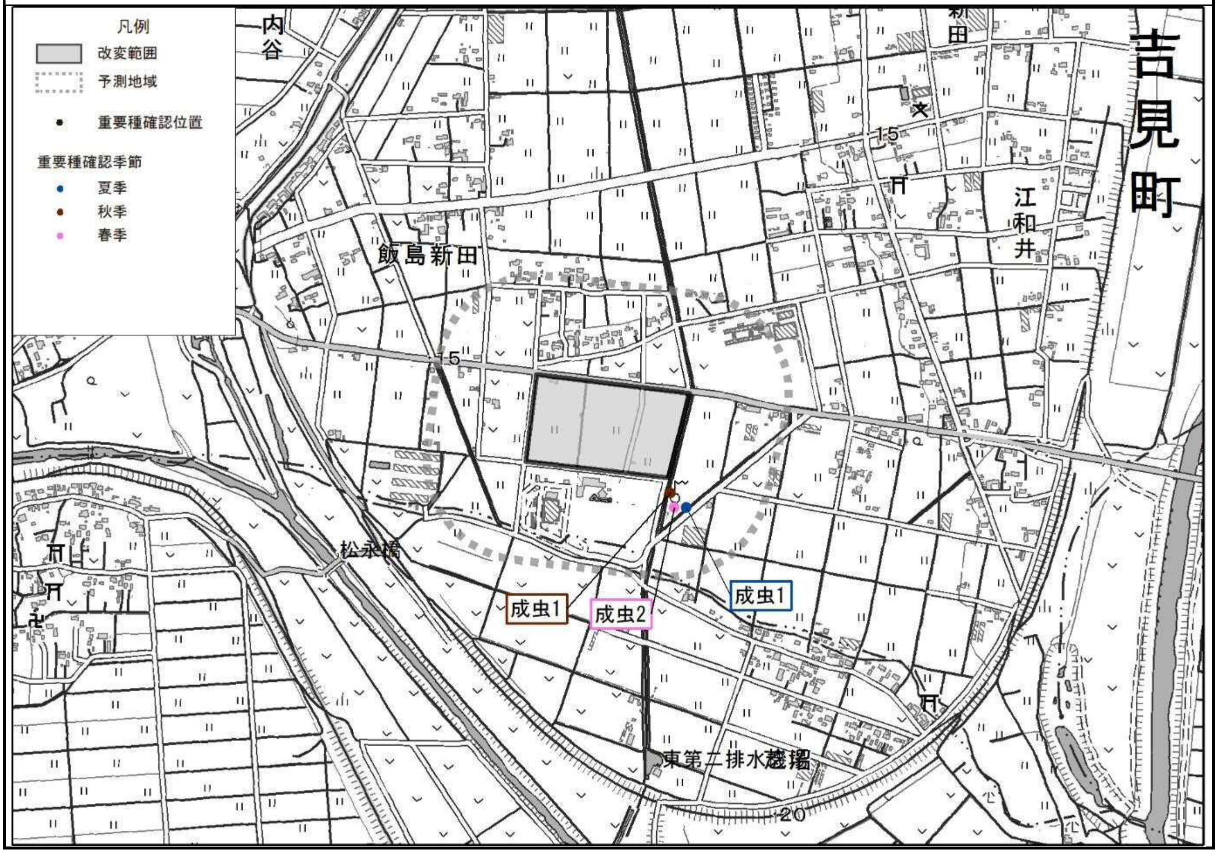


表 9.9-50 重要な種の予測結果(コガムシ)

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">水田や河川敷の水たまりなど不安定な止水域。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">水田や水路の深みから夏季に成虫 16 個体、秋季に成虫 1 個体、春季に成虫 3 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたコガムシ 20 個体のうち、本事業による計画地内で確認されたのは 5 個体である。本種は調査地域の水田及び水路などの水域を生息環境としており、本種の主な生息環境は直接改変されない。
工事中は、水田や水路への濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、適切な濁水・排水対策により影響は低減されることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保されると考えられる。なお、本種は、夜行性で集光性を有しており、施設等の存在・供用に伴う照明の設置により、忌避、移動経路の分断などの影響が考えられる。本種の生息環境に影響が生じるおそれがあると予測される。</td><td>影響が生じるおそれがある（B）</td></tr>
<tr><th colspan="5">確認位置</th></tr>
</table>

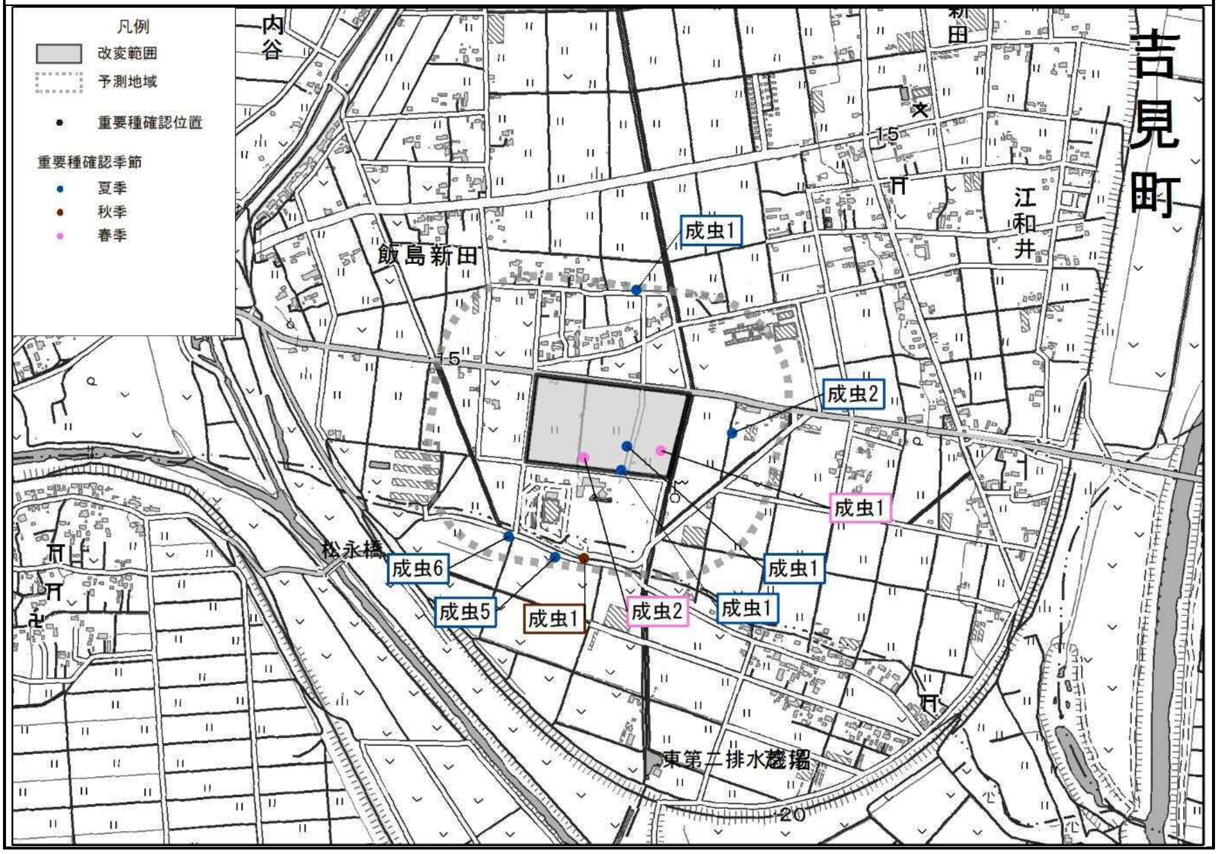


表 9.9-51 重要な種の予測結果(フナ属)

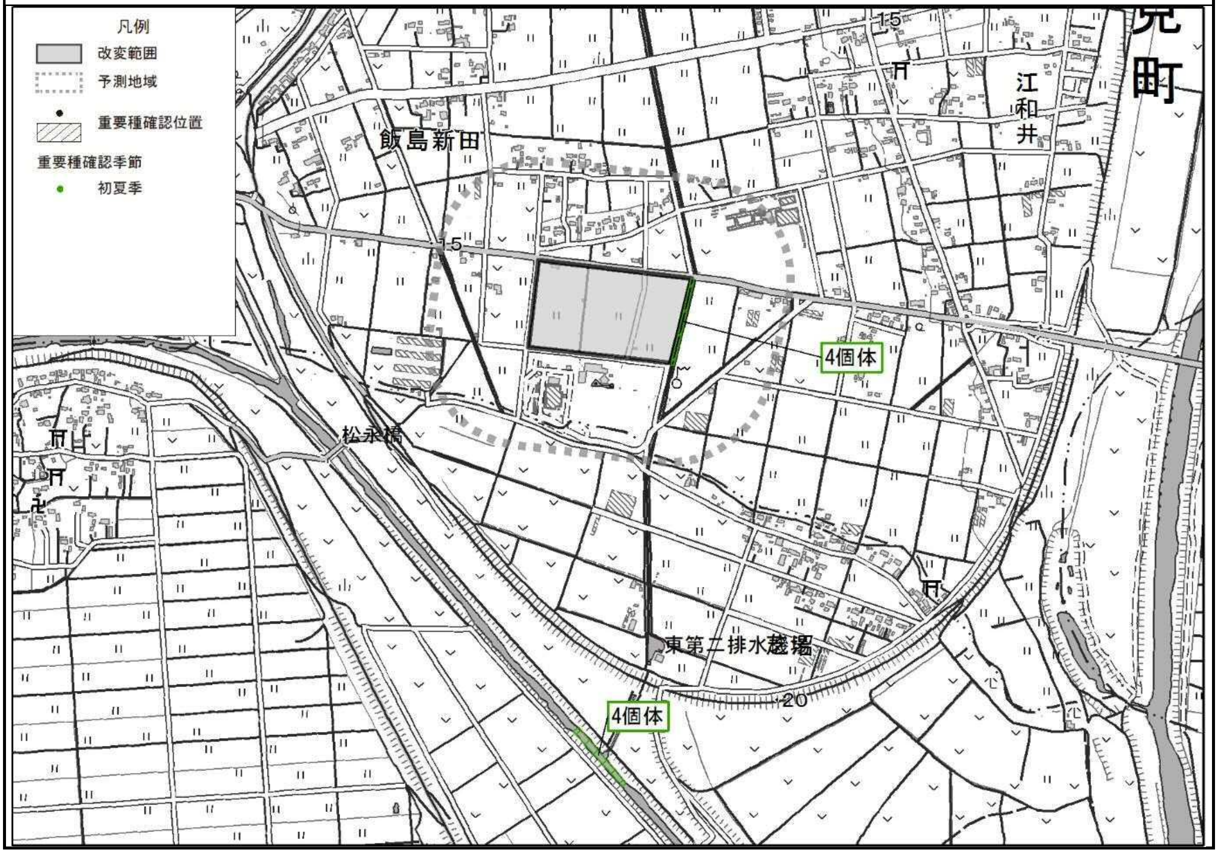
<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">河川や農業用水路、池沼に生息する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">水路及び市野川で確認された。水路では初夏季に 4 個体、市野川では初夏季に 4 個体が確認された。フナ属は、確認状況および一般的な分布からゲンゴロウブナ、ギンブナ、キンブナの可能性があるが、種の同定には至らなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたフナ属は 8 個体で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の水路や市野川などの水域を生息環境としており、本種の主な生息環境は直接改変されない。
工事中は、水路への濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、適切な濁水・排水対策により影響は低減されることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境を改変しない計画となっており、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じない。また、施設からの排水は適切な濁水処理等を行う為、水質への影響は低減され、生息環境の質的変化も生じないと考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
</table>

表 9.9-52 重要な種の予測結果(ドジョウ属)

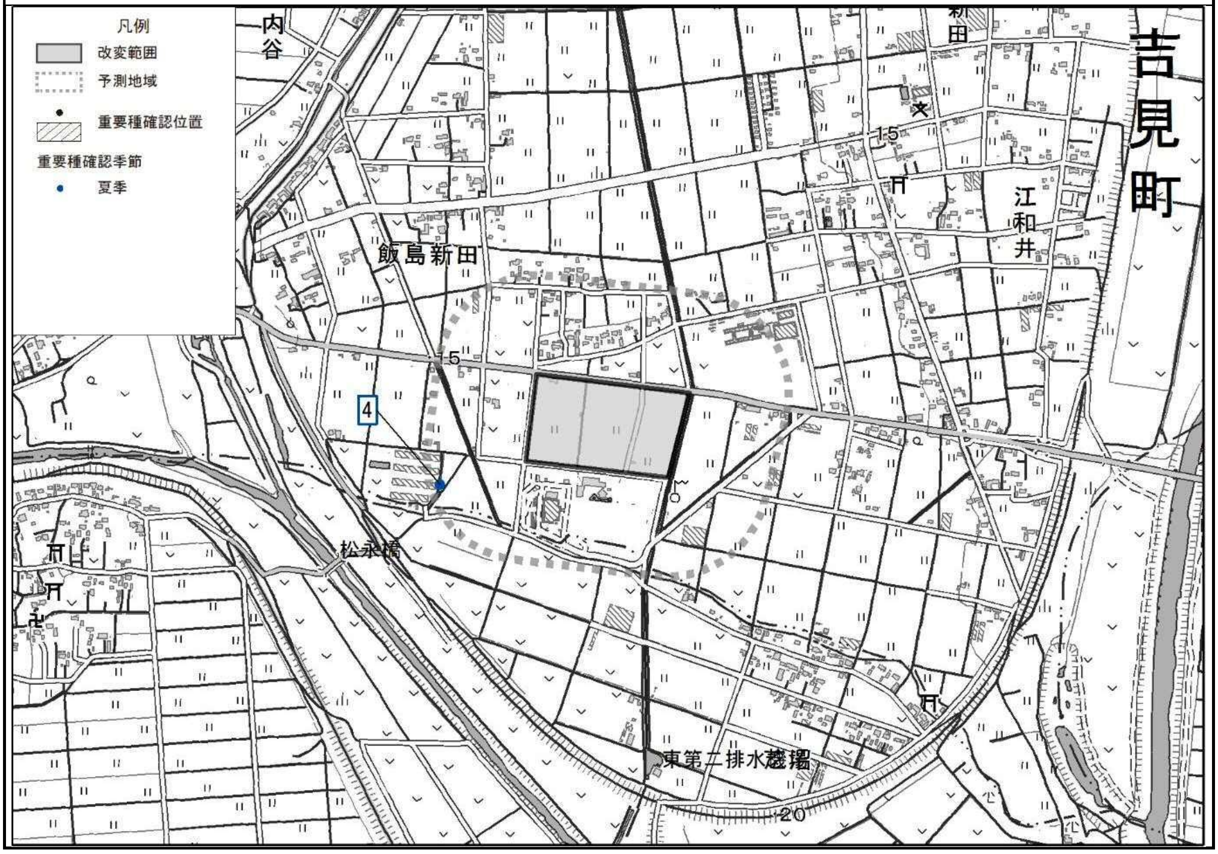
<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">河川中・下流域、用水路などの流れの緩やかな泥底にすみ、初夏に水田など浅い湿地に侵入して産卵する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">調査地点外の水田周辺水路で夏季に 4 個体が確認された。ドジョウ属は、カラドジョウ、ドジョウの可能性があるが、個体が小さく種の同定には至らなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたドジョウ属は 4 個体で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の水路や市野川などの水域を生息環境としており、本種の主な生息環境は直接改変されない。
工事中は、水路への濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、適切な濁水・排水対策により影響は低減されることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境を改変しない計画となっており、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じない。また、施設からの排水は適切な濁水処理等を行う為、水質への影響は低減され、生息環境の質的変化も生じないと考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
</table>

表 9.9-53 重要な種の予測結果(ミナミメダカ)

項目			内容	
主な生息環境			平野部の河川、池沼、水田、用水路。水際帯に水生植物群落が必要。	
現地確認状況			調査地点の水路で秋季に 1 個体、 市野川で秋季に 12 個体、冬季に 2 個体が確認された。また、調査地点外の水田周辺水路で夏季に 50 個体以上が確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の改変	調査地域周辺で確認されたミナミメダカは 65 個体以上で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の水路や市野川などの水域を生息環境としており、本種の主な生息環境は直接改変されない。 工事中は、水路への濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、適切な濁水・排水対策により影響は低減されることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
	存在・供用	施設の存在	計画地は、本種の生息環境を改変しない計画となっており、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じない。また、施設からの排水は適切な濁水処理等を行う為、水質への影響は低減され、生息環境の質的変化も生じないと考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい（C）
確認位置				

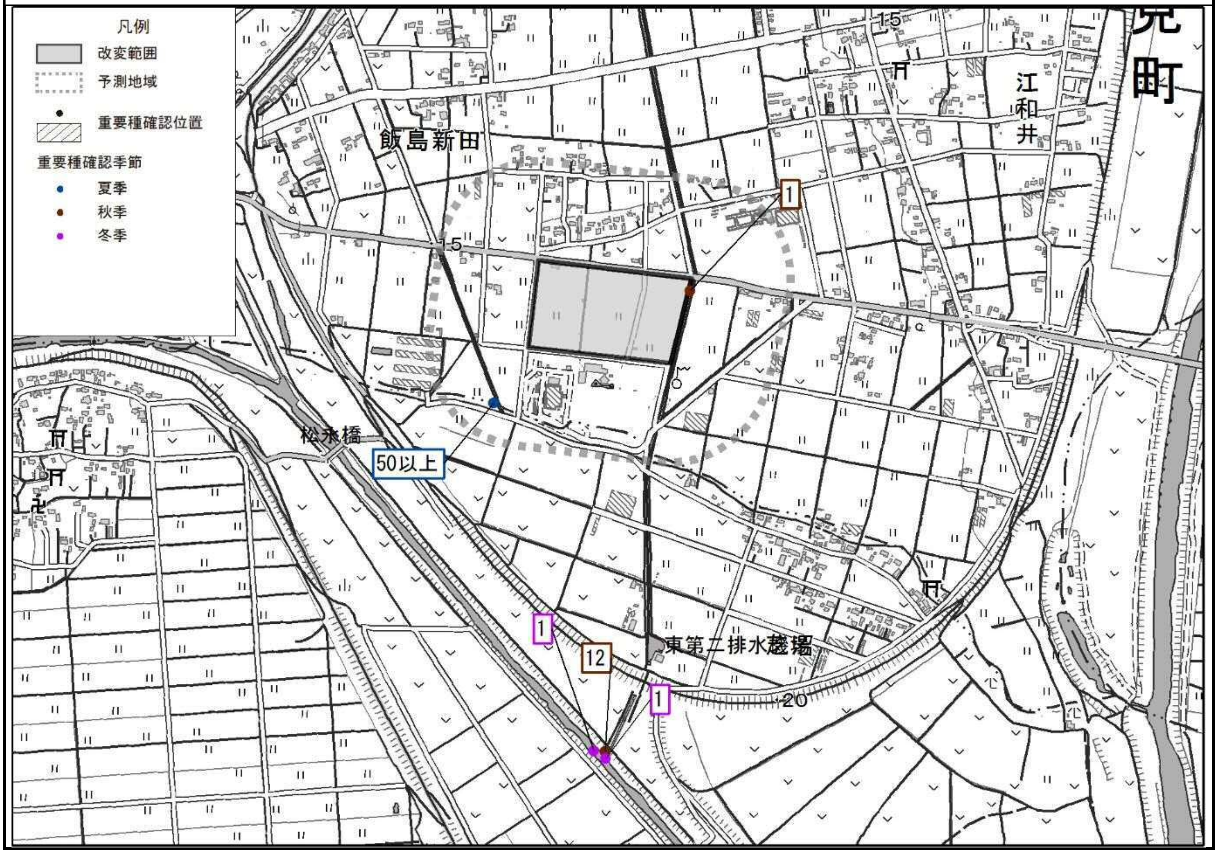


表 9.9-54 重要な種の予測結果(ジュズカケハゼ)

<table>
<tr><td colspan="3">項目</td><td colspan="2">内容</td></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">河川下流域や平野部のため池など、流れの緩い抽水植物の茂った泥底の環境。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">水路及び市野川で多数が確認された。水路で初夏季に 14 個体、秋季に 4 個体、冬季に 14 個体が確認された。 市野川では、初夏季に 6 個体、冬季に 15 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたジュズカケハゼは 53 個体で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の水路や市野川などの水域を生息環境としており、本種の主な生息環境は直接改変されない。
工事中は、水路への濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、適切な濁水・排水対策により影響は低減されることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境を改変しない計画となっており、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じない。また、施設からの排水は適切な濁水処理等を行う為、水質への影響は低減され、生息環境の質的変化も生じないと考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
</table>

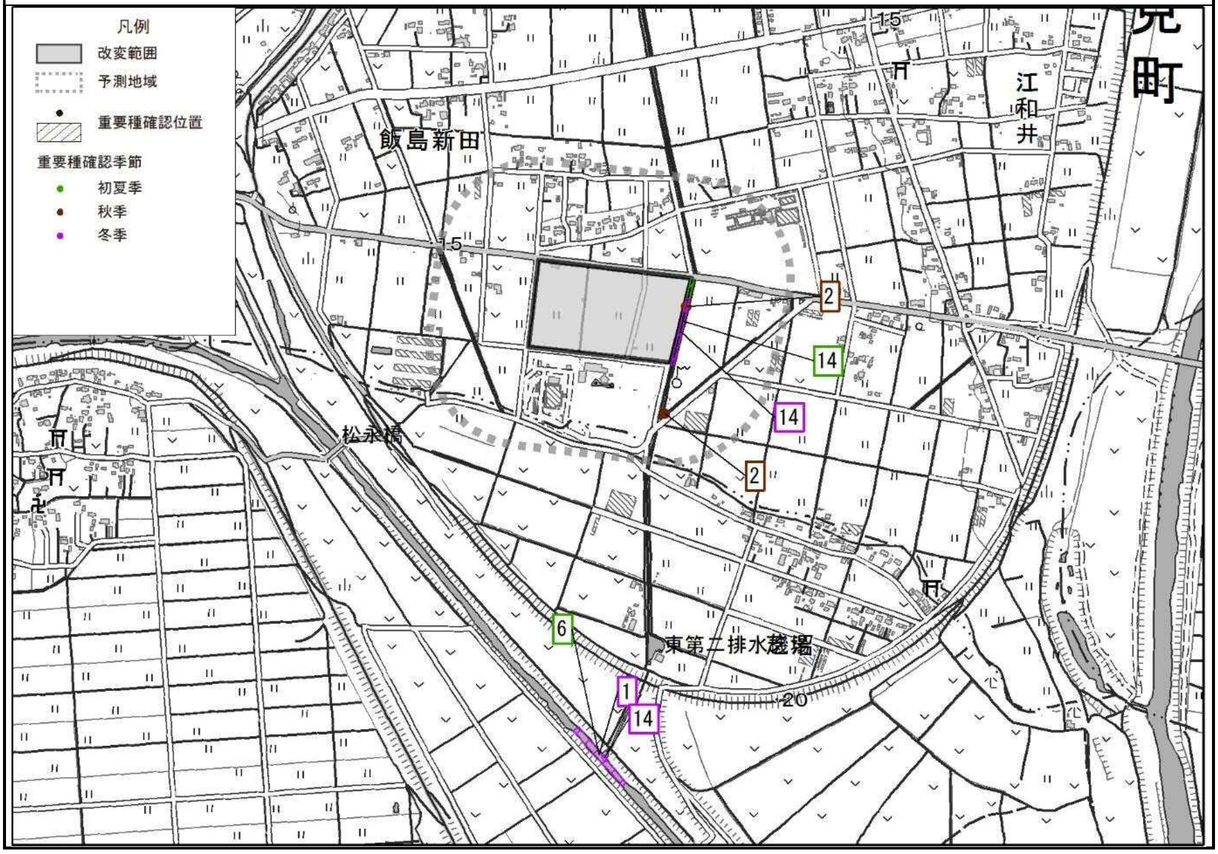
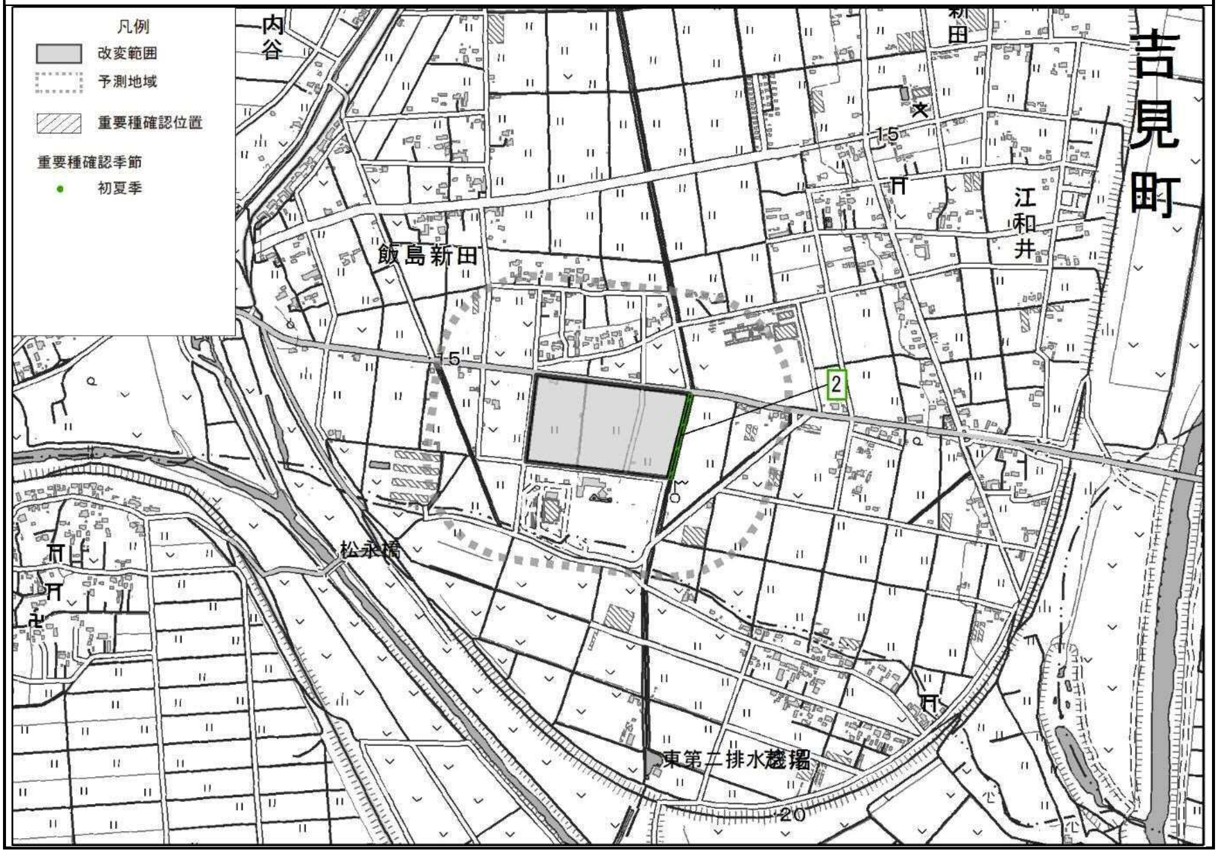


表 9.9-55 重要な種の予測結果(ドブガイ属)

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">主な生息環境</td><td colspan="2">河川の中流から下流、水路、湖沼、池沼など。</td></tr>
<tr><td colspan="3">現地確認状況</td><td colspan="2">水路で初夏季に幼貝 2 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">予測結果</td><td>工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>調査地域周辺で確認されたドブガイ属は 2 個体で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域の水路や市野川などの水域を生息環境としており、本種の主な生息環境は直接改変されない。
工事中は、水路への濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、適切な濁水・排水対策により影響は低減されることから、それらの影響は限定的と考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td>存在・供用</td><td>施設の存在</td><td>計画地は、本種の生息環境を改変しない計画となっており、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じない。また、施設からの排水は適切な濁水処理等を行う為、水質への影響は低減され、生息環境の質的変化も生じないと考えられる。
本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</td><td>影響は極めて小さい（C）</td></tr>
<tr><td colspan="5">確認位置</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
</table>

(4) 環境保全措置

(a) 環境保全措置の検討

工事の実施により「影響が生じる(A)」、施設の存在により「影響が生じるおそれがある(B)」と予測された重要な種への影響を回避・低減するため、並びに土地の改変(工事の実施)及び施設の存在(存在及び供用)による環境への影響を回避・低減するため、環境保全措置の検討を行った。検討内容は表 9.9-56 に示すとおりである。

表 9.9-56 環境保全措置の検討内容

重要な種	環境保全措置の種類	環境保全措置の内容
トウキョウダルマガエル	侵入防止柵の設置	越冬期前に改変範囲に侵入防止柵を設置し、影響を低減する。
	個体の移設	侵入防止柵設置後に、直接改変範囲内に生息する個体を影響範囲外に移設し、影響を低減する。
エノキカイガラキジラミ	補足調査の実施	補足調査により、工事実施前で巣や幼虫が確認できる時期(6 月、10 月)に、現存する個体の確認、および影響範囲外の生息適地、生息箇所(発生木)の有無について把握した上で、発生木となるエノキの計画地内への移植について検討する。
	代替生息基盤の創出	補足調査により、本種の生息環境に「影響が生じる」、もしくは「影響が生じるおそれがある」と予測された場合は、発生木として利用しているエノキを計画地内に移植し、消失・縮小された生息地を周辺地域に復元することにより、生息地を代償する。
コガムシ	照明器具への配慮	施設建屋の外部に設置する照明施設(屋外灯)には、周辺への光の漏洩を極力押さえる構造とし、光源の波長は昆虫類への影響が小さいものを採用する。

(b) 環境保全措置の検討結果

環境保全措置の検討及び検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容を表 9.9-57 に整理した。

工事の実施により「影響が生じる（A）」と予測されたトウキョウダルマガエルは、工事実施前には、水田が水抜きされている状態であることから、本種が改変範囲内を繁殖環境として利用する可能性はないと考えられる。また本種は、繁殖期以外も水辺から離れないことから、水田などの周辺に生息すると考えられ、水抜き後も、改変範囲を生息環境として利用する可能性がある。そのため、改変範囲への侵入防止柵の設置、及び影響範囲外の生息適地への個体移設について検討が必要と考えられる。

工事の実施により「影響が生じる（A）」と予測されたエノキカイガラキジラミは、一般的な生態から局所的に分布し、寄主のエノキが多く分布する環境でも、発生木が限られているため、保全には発生木を残すことが重要とされている。そこで、補足調査により、工事実施前で巣や幼虫が確認できる時期（6 月、10 月）に、現存する個体の確認、および影響範囲外の生息適地、生息箇所（発生木）の有無について把握した上で、計画地内に発生木となるエノキの移植について検討が必要と考えられる。

施設の存在により「影響が生じるおそれがある（B）」と予測されたコガムシは、夜行性昆虫類であり、施設建屋からの光の漏洩を極力抑え、光源の波長は昆虫類の影響が小さいものを採用することで、影響を低減できると考えられる。

表 9.9-57 環境保全措置の検討結果

重要な種	措置の種類	措置の区分	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
トウキョウダルマガエル	侵入防止柵の設置	回避・低減	改変範囲に侵入防止柵を設置することにより、個体の侵入を防ぎ、影響を回避・低減できる。	なし	なし
	個体の移設	代償	消失・縮小される生息地を利用している個体を、越冬期までに影響範囲外に移設することにより、生息地を代償できる。	なし	なし
エノキカイガラキジラミ	補足調査の実施	事前調査	工事実施前に現存する個体の確認、影響範囲内外の発生木の確認を行い、保全措置の不確実性を低減する。	なし	なし
	代替生息基盤の創出	代償	消失・縮小される生息地(エノキ)を、計画地内に移植することにより、生息地を代償できる。	移植後の生息状況をモニタリングする必要がある	なし
コガムシ	照明器具への配慮	低減	施設建屋の外部に設置する照明施設（屋外灯）には、周辺への光の漏洩を極力抑える構造とし、光源の波長は昆虫類への影響が小さいものを採用することで、夜行性昆虫類への影響を低減できる。	なし	なし

9.9.3 評価

(1) 評価の手法

工事の実施、施設の存在及び供用に伴う動物への影響の評価は、調査及び予測結果を踏まえ、対象事業の実施により工事の実施、施設の存在及び供用に係る動物に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているかどうかを評価する方法により行った。

(2) 評価結果

調査及び予測の結果、工事の実施、施設の存在及び供用により、動物の生息環境の一部に影響を及ぼすが、前述した重要な種に対する環境保全措置のほか、使用重機の配慮や、適切な濁水・排水対策といった環境保全措置を講じることにより、低減が期待できるものと考えられる。

以上のことから、工事の実施、施設の存在及び供用に伴う動物への影響については、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価した。

表 9.9-58 重要な種に対する環境保全措置に係る評価結果

分類	種名	環境保全措置	評価
両生類	トウキョウダルマガエル	侵入防止柵により影響の回避・低減、個体の移設により生息地の代償措置を検討。	○
昆虫類	エノキカイガラキジラミ	補足調査結果を踏まえた上で、代替生息基盤の創出により生息地の代償措置を検討。	○
	コガムシ	低減措置として照明器具への配慮を検討。	○

○：事業者により実行可能な範囲内で影響が低減されていると評価した。